

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

TEL:06-6493-3731

Mail:info@sonodaen.or.jp

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑

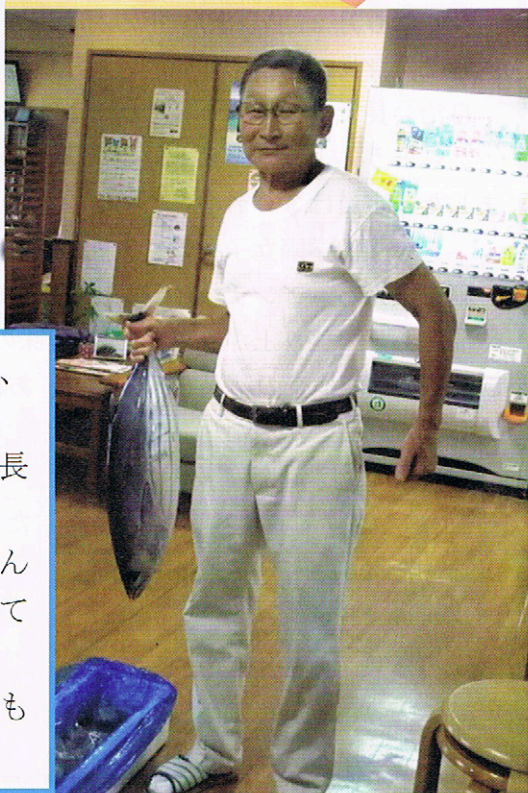


今夏、気仙沼から大きな生カツオが2回にわけて、4匹も送られてきました。

上の写真は、第一回目。気仙沼第二保育所の千葉所長からのものです。

写真にはありませんが、気仙沼唐桑の仮設住宅に住んでおられる小野寺さんからは今年の生サンマに続いてカツオを頂きました。

いずれも大きな立派なもので、職員、利用者ともども感嘆の声をあげました。



ワーキングホリデー制度を利用して民際交流を

理事長 中村 大蔵

昨年の12月20日より、韓国の大学を卒業した女子大生キムミソンさんが園田苑でワーキングホリデー制度を利用し、デイサービスで働いている。早いものでもう8ヶ月になろうとしている。

彼女は2010年9月から3ヶ月間、プサンにある東明大学社会福祉学科学生として園田苑でインターシップを体験した3名のうちの一人である。

その時の思い断ちがたく、さらに日本語を勉強して日本で働きたいと、その意志はますます募るばかりであった。日本の（老人福祉）施設で働くには行政の壁厚く、やむなく自ら進んでワーキングホリデー制度を利用して、園田苑の門を叩いた。同制度も受け入れ人数などそれなりに制約があつて、だれでもいつでもというわけにはいかない。

しかも、その名の示すようにホリデー（休暇）に軸を置いた制度なので、どの国も若者が遊び気分です活用しているのが大半である。

だが、それまでに彼女と何回か会った体験から、遊び気分でないことは確信が持てた。母親と会った時にもそれは感じた。

ワーキングホリデーと聞けばそのすべてを物見遊山の海外滞在としか理解せず、さらにわが国はその閉鎖・排他的国情から、「ワーキング」を体のいいコマ切れ低賃金労働に利用する傾向にある。

これでは国際交流に禍根を残す。私はキムさんに「ワーキングホリデーではなくワーキング・スタディーだよ」と強調した。彼女はそれに応え、日本語もどんどん上達し、お年寄りとのコミュニケーションもそれに劣らず上手になった。

国際交流は、まず民と民との民際交流があつて始まり、強固なものになる。それだけにより身近な取り組みを大切にしたい。

自分の身体の状態を知りましょう ～まちの保健室を開催しました～

「まちの保健室」は地域住民の方々の健康増進を目指し、園田学園女子大学の教員が運営している健康相談室です。

今回は6月21日（土）、戸の内改良住宅集会所に於いて、出張「まちの保健室」を開催致しました。内容は、身長、体重、体脂肪、血圧、骨密度、健康相談、ミニ講話です。

自治会長より「100枚のチラシを配りました」のお返事をいただき、かなり多くの方の参加になったらどうしよう？今までにない人数の参加になったら？のかなりポジティブな気持ちで当日を迎えました。定員は30名のところ22名の参加者でした。

～園田学園女子大学 人間健康学部 人間看護学の教員 根本 順子先生のミニ講話～

脳を鍛える～アンチエイジングと認知症予防～大好評でした。特にパズルを使った学習療法は笑いや溜息ありで盛り上がりしました。（興味のある方は地域包括までお問い合わせください）また、健康相談では、血液検査の結果を持参され、あれやこれやと質問、「主治医の先生より丁寧にわかりやすく説明してくれてよかった。」と満面の笑顔で感想を述べられていました。



戸の内は高齢化率が高い地域ですが、骨密度の成績は良かったです。食事と適度な運動（買い物は阪急園田駅まで出ないといけませんが）のバランスが取れている証拠です。

生活に於いて、食事・運動・睡眠・排泄は欠かせないものです。ご自分の身体の状態を知って、労ってこの暑い夏を過ごしましょう。

尼崎市「園田南」地域包括支援センター 福田 良子



ぶれてはいけない介護とは？

～日本の高齢者福祉施設の変遷の講演を聞いて～

安永さんが入浴介助は本当に技術の問われるケアだということを話された時、ドキリとして自分の情けなさに胸が詰まりました。

利用者様の楽しみである入浴を安全に快適に提供できるように努めなくてはならないのに、今の自分にはその技量が無く職場復帰についていくのがやっとなことに悔しさと悲しさが募りました。

しかし安永さんはお話の中で、「なぜこのケアはこう行われているのか？」理由や裏付けを一つ一つ考えることが大事だと説かれ、今の自分に足りない物がはっきりと見えてきました。一日一日で変わっていくお年寄りのADLに合ったケアを、気持ちに寄り添ったケアを、今日はこの入浴方法でいいのか？今はこれを求めておられるのか？と問い続けること。ケアの裏付けをしっかりと取ることの意味のある行動を取る。業務をマニュアル化してこなすことでは本当のケアには繋がらないということ。早く仕事が以前のようにこなせるように戻りたい、他のスタッフのお荷物になることのないようにと焦っていた私は、本当の介護が見えていなかったと恥ずかしく思いました。技術がない自分を恥じるより、人が人を大切に思う気持ちを根幹に自分を磨いていくことが本当の技術を手にいれる近道なのだと安永さんのお話を聴いて感じました。

過去の介護現場の写真を見て、今も昔もお年寄りの気持ちや、人間の求める根源的な関わりは変わらないと思いました。

焦らず正確に安全に、利用者様の喜ぶ顔が溢れるケアを目指していきたいです。そのためにはいつも「自分は本当にこれでいいのか？これで後悔はしないのか？」と介護方法を問うことを忘れずに技術を磨いていきたいです。

通所介護 高橋 宏美

日々、介護職に携わっている中、今置かれている環境が当たり前で福祉用具等も充実し、どんどん進化し便利になっています。時代の流れはすごいものだと思います。昔ではこんなこと考えられなかっただろうと思うことはあっても、今まではどうであったか歴史を知ることがまったくしなかった自分がいました。

今回の研修で昔はこんな時代であった…と歴史の話を聞く中で、驚く事、考えることが多くありました。人権もプライバシーもないオムツ交換や入浴、されるがままの身体拘束、介護する側の都合での目線で行われていた介護、人の手が足りない上に、設備も物品も今のように充実していなかったこと等、色んな背景が考えられます。何年、何十年前は、当時はそれが一番の介護であったのかと思うと、現在と比べる以前の問題だと思いました。

個別ケアはその当時なりに行われていたのかも知れませんが、今と比べたら考え方、視点が違ってきます。昔があるから今がある、先輩の苦労があったからこそ生まれた今があり、そう考えると否定は出来ません。

お話があった中での入浴は、ただ保清をする目的だけに意味があり、その過程は問題視しなかったんだと感じました。社会的入院も行われていた中、我慢という言葉が適当であるか分かりませんが、我慢をするしかなかったんだと思いました。

環境もそうですが介護する人の手により人生が変わるともいわれます。人として大切にし、ぶれてはいけない事はいくつかあると思います。自分の立場に置き換え、当たり前前に生活している中で物事を考え、人の気持ちに寄り添えるような関わりが出来るように出来ればと思います。まだまだ知らない事が多くあります。講義などを聴いたり人と話をする中で教えられることが多々あり勉強になります。外向きに視野を広げ見聞を深めていきたいと思っています。

居宅介護 吉川 弥生

今回ユニットをさらに分けることとなり。自分の所属するユニットではこの先何をしていくべきかを悩んでいたの、ヒントを得たいという目線で今回の講義を聞かせていただきました。

身体的に重度な方をみている中、私は環境作りをととても苦手としています。この方たちの過ごしやすい環境は何なのか、何を必要としているのかが見出せておらず、生活する上で当たり前の事も仕事となると考えないと分からなくなってしまっています。

発想力のない私には少し時間が掛かりますが、今回は当たり前にやっていたことを逆に当たり前と思わず、良い機会だと思い一から見直してみようと思います。

職員が心にゆとりを持てば、お年寄りも時間に縛られず穏やかに過ごせると思っています。お年寄りは職員の動きをよく見ており、バタバタすれば不穏になったりします。最近では「忙しいとごめん」と口にされることが多いように思え、申し訳ない気持ちでいっぱいです。だからと言って、仕事を早く終わらせれば良いとも思いません。仕事が早い事のデメリットとして、一人のお年寄りと関わっている時間が短くなってしまいうことが一番に思い浮かびました。お年寄りからの目線だと、用事だけ済まされて自分の話しはゆっくりと聞いてもらえずといった状況でしょうか。お年寄りの立場からのデメリットがととてもたくさん考えられました。OJT研修でも特養のテーマに、自分たちの時間にお年寄りを合わせないとありました。これも当たり前のことなのですが、もう一度職員全員で考え直したいことだと思っています。

貴重な時間をありがとうございました。

特養 3階 大川畑 唯

オレンジカフェ開店で～す♡ ～地域に開放～

毎月恒例のミニ喫茶が、6月から少し趣を変え、名前もちょっと？おしゃれにして「リニューアルオープン」しました。

11時からの、関口Wの「熱中症予防の話と転倒予防体操」には8名参加。皆さん熱心に耳を傾けて下さり、冗談も言いながら、体操も楽しんで頂けたよう。さあこれで、今年の夏の暑さ対策はバッチリ、食べる準備もいつでもOKです。

今月のメニューは「お好み焼き&焼きそば定食」酢の物、味噌汁、スイカもついてまーす。開店時間の30分前から焼き始めたのですが、なんとなんと！17名の方がお越し下さり、お好み焼き班も焼きそば班もてんやわんや。キャベツが足りなくなり、1Fの厨房で追加を切ったりで、お出しするのに時間がかかってしまいました。待っていただいた方は本当に申し訳なかったです、ごめんなさい。でも「美味しい～」って言っていただけると、心の中でガッツポーズ！！「いつも美味しいよ」なんて、もう～ほめ上手、さすがです。「お腹いっぱい、コーヒー入らんわ」「来月もある？」「もちろん、又お知らせ配りますね」「毎週してほしいわ」食後のおしゃべりに花が咲き、ゆっくり過ごしていただけました。



午後2時から1Fで、デイのお年寄りと一緒にクッキー作りに挑戦。いつも苑のデイを利用のYさんが参加。みなさん熱心に黙々と、クッキーの形を作ります。とても器用に成形されているのには、びっくり！新しい発見です。焼き始めると、デイルームはクッキーの甘い香りに包まれ、「しあわせー！」。待ちきれません。焼けたクッキーは、その日のデイの利用者さんや職員もお相伴にあずかり、まあなんと美味しい事。やっぱり手作

り、心も愛情もたっぷり入ってまーす。Yさんはお土産を持ち、とてもすてきな笑顔で帰られました。

8月は28日（木）です。又たくさんの方のお越しをお待ちしております。

（支援センター センター長 物部 幸代）



長純一医師の講演を聴いて

～被災地で見えた全国的課題『地域包括ケア』のゆくえ～

6月29日(日) 講師:長 純一医師の講演を聴いて参りました。

地縁・血縁のつながりがより強い東北。広い家での生活が当たり前の方々にとって、声が筒抜けの仮設、プレハブ住宅で知らない者同士が隣り合い生活するのは、多大なストレスがかかっている事でしょう。阪神淡路の時よりもコミュニティ形成も進まず、苦勞されている話をされていました。被災された方々のケアでは、身体的側面だけでなく、家族を失った喪失感、家や財産を失い仕事を失うといった社会的側面に対するケアの大切さと、そういった場面での社会福祉士の必要性を長先生が話されたので、被災地でのソーシャルワーカーの活躍が期待されます。

お金があり仕事がある人は仮設を出て行く事が出来るが、出ていけない人もいてその格差は広がる一方。社会的に孤立した人は、ネットワークのある人に比べ死亡率が高いというデータもあり、今の社会の縮図が被災地あるように思えました。「地域包括ケア」の行方として高齢者ニーズの把握と自治活動・ボランティア・インフォーマルサービスの重要性が挙げられていましたが、これについても今の被災地に必要なことであり、地域包括ケアは高齢者だけの問題ではなくなっているとも話されていました。

尼崎市「園田南」地域包括支援センター 社会福祉士 山本 美保



丁度、一年前の今頃、園田苑より気仙沼に連れて行って頂き、尼崎で出来ることを頑張ろうと決めて帰ってきたものの、何が出来た訳ではなく、お年寄りが作って下さった手芸品を募金にあてるなどし、皆様のご協力も得て、工夫してきたが、これがなかなか...、であった。気持ちが離れそうになった時は、安いチケットで、その後も気仙沼に行ってみるも、行く度に落ち込んだ。なぜ行くのかには答えられるが、なぜ来たのかと問われた時、答えられない自分があり、情けなかった。過酷な中でも、圧倒的なひたむきさを持つ気仙沼の方々と、恵まれた自分とを、思えばばかりの一年だった。

そんな時、長先生の地域医療の番組を偶然観た。佐久病院を辞め、石巻の仮設で開業。診察には一回に30分かけ、日々の暮らしを辿り、病気を治すだけでなく、その根っこを探る為だという。素敵な番組だった。そして、センターで本当に「募金、どうしたええんやろ」と思っていたので、何かきっかけをもらいたいと思い、講演会に行った。情けないが、お話のスピードについて行けなかった。が...、ただ、被災地医療には「医療ではなく、福祉が必要！」と熱弁しておられたように思う。医者が「福祉が！」というのを久しぶりに私は耳にした。官公庁に掛け合い、開業した仮設内の医院の横に「地域包括センター」を設立。そこで専門職同士の連携強化、仮設自治会の後援、手弁当で頑張ってきた支援者のサポートなど、統括し、後押しする拠点で、これからの新しい日本の医療を創っていこうとしておられたように思う。昔の佐久病院での革新的な地域医療、そして、被災地での長先生の現在進行中の奮闘を聞き、簡単すぎるが、先が見えなくても、目標を据え、ぶれず、私はいつも危なげだが、せつせとやってくしかないし、でも、いつか今の自分を反転させてみたいとも思えた講演会だった。よい機会を頂き、本当にありがとうございました。

センター事務 倉田 和美

デイサービスつづれ草紙



デイサービスでは夏場、なんとかして皆さんに水分補給をしてもらいたいと、ウェルカムゼリーをお茶とともに提供しています。皆さんにも好評をいただき、ゼリーのレパートリーも増えました。



何をしている所でしょうか？正解は次月号で！

特養があってこそその地域包括ケア

～「園田苑がこの地域にあってよかったと言われるために～」

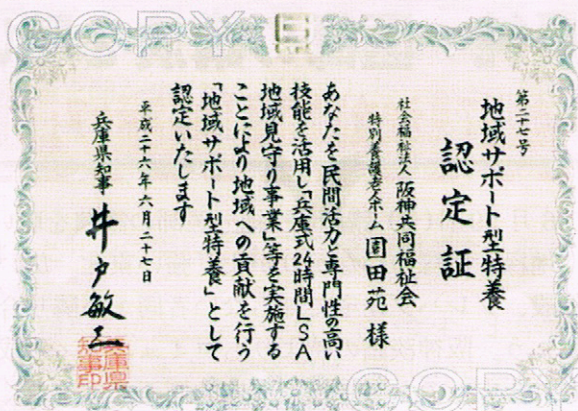
この度、兵庫県が行う兵庫式 24 時間 LSA 地域見守り事業として、24 時間地域サポート型特養の認定を受けることになりました。

24 時間地域サポート型特養とは、園田苑がある小中島を中心にある程度の範囲を限定して、その地域の高齢者や高齢者世帯・家族同居の高齢者（日中は独居）の方を対象に、相談や週に数回の訪問と安否確認をしたり、緊急時には自宅へ駆けつけ関連機関につなぐことにより、みなさんが少しでも住み慣れた地域で過ごせるように支援していく事を目的としています。

園田苑ができて 26 年が経ち、法人理念「阪神共同福祉会はすべての人の命を大切に地域福祉の担い手となる」とあるように地域を意識した取り組みを通して、地域における園田苑の存在意義が求められているように思います。

まだまだ準備段階ですが、私たち社会福祉法人が持っているサービスや専門性を地域の皆さんに還元すること、「園田苑がこの地域にあってよかった」と言ってもらえる様に地域の方々とのつながりを強くしていきたいと考えています。

（特養 生活相談員 大上 茂利）



兵庫式 24 時間地域見守りサービス (兵庫 LSA24)

園田苑地域サポート型特養 24 時間 地域見守りサービス

地域見守りサービスとは…

社会福祉法人阪神共同福祉会 特別養護老人ホーム園田苑が、利用を希望する個人と契約し見守りなどをおこなうサービスです。地域の高齢者ができるだけ安心して住み慣れた場所で在宅生活が送れるようにサービスを行います。

サービス名称	サービス内容	サービス提供時間帯
安否確認サービス	週に 1 回 安否確認の訪問をします。 (滞在時間：3～10 分程度)	日中
相談援助サービス	困っていることをご相談ください。 関係機関への連絡調整や情報提供を行います。	日中
緊急通報対応	利用者からの電話連絡・緊急通報に対し、相談・援助を行います。	24 時間

実施区域：特別養護老人ホームを中心とした概ね半径 1.5km の区域

お問い合わせ先

特別養護老人ホーム園田苑

TEL：06-6493-3731



次号予告

LSA 職員の三浦による、兵庫式 24 時間地域見守りサービスで地域サポート型特養をされている他施設見学の報告や、園田苑の取り組みについての記事を鋭意作成中!!

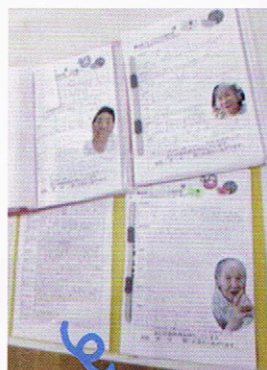


人と人としての関係作りこそショートステイには必要 ～ショートステイ奮闘記～

特養のユニット介護の取り組みが始まって1年。2階・3階でそれぞれに特徴が出てきました。今までショートステイは3階に居室があり、3階で生活していただいていたのですが、『2階でもっと生活を感じてもらったら、在宅に帰るショートステイ利用者さんに、もっと在宅生活へのヒントや情報を持って帰ってもらえるんじゃないか。。。』とってきました。

それは、以前の風話鈴香でも登場した、小倉さんのショートステイでの取り組みがきっかけでした。自立を希望する小倉さんに、「俺はショート中どこで過ごしたらいいんや？」と聞かれた際、「どこで過ごすかも自由ですよ。」と伝えていました。

私は、『1階のデイサービスに毎日下りてきて、顔見知りの方と過ごされるだろう』と考えてきたのですが、小倉さんは2階で過ごすことを選びました。なんでなんやろう3階にお部屋があるのに。1階には顔見知りの職員も利用者さんもいるのに。



園田苑式ショートステイ引継ぎファイル

考えました。デイサービスは家での生活にデイでの取り組みや情報をお渡しすることはできません、自宅での生活とは異なります。楽しんで、いつの間にか運動もして、どちらかというエンターテイメントな私達デイサービス。小倉さんが居心地の良さを感じられたのは、おそらく2階の穏やかに流れる時間なんだなあ。と思った時、穏やかに在宅生活の延長線で暮らすショートステイという、デイサービスとはまた違った取り組みの中から、よりリアルなヒントや情報をご自宅に持って帰ってもらえると思ったのです。



また、2階の職員の入居者との関わりを見てきて、介護だけではなく、人と人としての関係作りの丁寧さを感じてきました。ショートステイをご利用後、いつかは園田苑特養に入所されるかもしれない利用者さんに、本人にもご家族にも不安なく入所してもらえる関係が2階なら作れるのでは。。。とも思いました。

そして6月末より、試験的な2階ユニットでのショートステイの受け入れが始まったのです。

たった1か月ですが、2階でショートステイを受け入れることで、色んなことを学ばせてもらいました。自分の未熟さも、職員の思いの強さも、迷いも。。

数回に渡ってショートステイ奮闘記をご紹介します。→次号へ続く。

通所介護/短期入所生活介護

生活相談員 深津 智子

つづれ草紙

6月13日の金曜日、デイサービスでは村越ヘルパーが男のカレーを男性利用者さんと調理し、皆さんをおもてなしました。なんと初めての調理！とのことで、脇をがっちり主婦にかためられ、マダムな利用者様たちにもあーやこーやと指示をされ、彼がしたのはうまみ成分のいっぱい肉汁を捨て、みんなからドン引きされたことくらい。。。 (笑)それでもとてもおいしいカレーができて、皆さんとても喜んでくれました。村越君！花婿修行にまた料理してくださいね！



朝からにぎやか

～あんぱんは粒あんでしょ！～

夏場ということもあり、皆さん食欲がないのでは？パン食だったら食べて頂けるのでは？ということで、7月10日朝食バイキングを行いました。

手作りパンを職員に試食してもらおうと「あんぱんは粒あんでしょう」とご意見を頂戴したので、こしあんからつぶあんに変更して皆さんにお出ししました。(笑)

いつもの業務プラス、サンドイッチ作りやパンを焼いたり、スムージーを作ったり、あっという間に時間が立ち、久しぶりに活気を感じたのと同時に、食事が8時のスタートで厨房内はバタバタでした。



焼き立てパンを食べて頂きたい一心でおかわり分のパンを持って入居者におすすめすると「1番美味しいパンはどれ？」「もう一つ頂戴」等々。毎朝ご飯食を召し上がっている方もサンドイッチを召し上がっておられとても嬉しかったです。

そして、少し驚いたことがありました。モロヘイヤのスムージーが美味しいという方がおられ、「またしてね」と言われたこと。私にとっては意外でした。

予想以上の反響があって、こちらもとっても嬉しい気分させて頂き、ありがとうございました。

厨房 高木 利江子

メニュー：手作りパン色々（惣菜6種類、あんぱん、クリームパン、サンドイッチ2種、むしばん2種類）スムージー2種類（バナナをベースにしたもの）牛乳、コーンポタージュ、サラダ



～園田苑からのお知らせ～

8月23日（土）園田苑夏祭り：毎年恒例の園田苑の夏祭りが開催されます！まだまだ暑い夏が続きますが、たこ焼き焼きそば力キ氷。浴衣に花火に盆踊り！楽しい時間を過ごしませんか？午後6時～8時園田苑にて。



編集後記

その人らしさを守ることと、社会の秩序を守ることが相反する時があるんだな。

その時の着地点は、「周囲の理解」なのかなあ。

（酒浴女）

毎週水曜日から金曜日、始発電車で母が丹波へ介護帰省。父の両親を看取ってもう介護はこりこりと言っていた母。

「自分しか看る人がいないから」

「もつと他の人に頼ったらいいんじゃない」と軽々しく言う私。この夏、娘は初めてひいばあちゃんに会いに行きます。

軽々しく言う前にまずは自分から行動に移そう。（きんたろう）

我が家に来たエアコン業者との雑談。昔は介護業界で働いていて、園田苑にも営業に来たことがあるとか。情報保護の観点からも込み入った話はしなかったものの、意外な所から聞く我が施設の話にびっくり。（きりん）

『24時間地域サポート型特養』

9月から始まる新事業。

地域の昼も夜も安心しておまかせくださいと言いつけるには無理があるけれど、この小さな試みが地域連携の一端を担うという意識をしつかり持つて挑みたい。（野の花）